

第49回北洋研究シンポジウム  
-亜寒帯域における魚類の初期生活史研究と加入量予測の現状-

日時：2019年9月13日(金)10:00-16:30

会場：函館市弁天町20番5号 函館市国際水産・海洋総合研究センター

共催：一般社団法人水産海洋学会

コンピーナー：高津哲也(北大院水)・千村昌之(水産機構北水研)・板谷和彦(道総研中央水試)・  
中屋光裕(北大院水)

挨拶：山下 洋(一般社団法人水産海洋学会長)

10:00-10:10

趣旨説明：高津哲也(北大院水)

10:10-10:20

座長：千村昌之(水産機構北水研)

1. 北海道日本海におけるスケトウダラの仔稚魚分布調査による加入量予測 10:20-10:45

板谷和彦(道総研中央水試)

2. 異体類による加入前スケトウダラ幼魚の捕食 10:45-11:10

山村織生・西尾燦吾(北大院水)・石野光弘(水産機構北水研)・

貞安一廣(水産機構開発調査センター)

3. 陸奥湾における1989~2019年マダラ着底稚魚分布密度調査による加入量予測 11:10-11:35

高津哲也・中屋光裕・神山晃汰(北大院水)・亀井佳彦・小林直人・

飯田高大(北大水練習船うしお丸)・野呂恭成(青森県産技セ水総研)

座長：高津哲也(北大院水)

4. 大槌湾における近年のマコガレイ加入動向と稚魚の成長特性 11:35-12:00

後藤友明(岩手大農)

昼休み

12:00-13:00

5. ホッケ生活史初期の成長 13:00-13:25

河村真美・中屋光裕・高津哲也(北大院水)・巢山 哲(水産機構東北水研)・

鈴木祐太郎(道総研稚内水試)・高島信一(道総研栽培水試)

6. ホッケの産卵~仔稚魚期における環境と加入変動との関係 13:25-13:50

鈴木祐太郎(道総研稚内水試)

7. ホッケの父母性効果について 13:50-14:15

森田晶子・横田高士(水産機構北水研)・中屋光裕・横山貴洋(北大院水)

休憩

14:15-14:25

座長：森田晶子(水産機構北水研)

8. 秋田県男鹿半島の漁港内メソコズムにおけるハタハタの成長とその年変動 14:25-14:50

甲本亮太(秋水振セ)・高津哲也(北大院水)・佐藤正人(秋水振セ)

9. 石狩湾に産するニシンやハタハタの加入変動 14:50-15:15

星野 昇(道総研中央水試)

10. 津軽海峡周辺におけるキアンコウの初期生態 15:15-15:40

高 偉峰・中屋光裕・高津哲也(北大院水)・竹谷裕平(青森県庁)・

鈴木 亮・野呂恭成(青森県産技セ水総研)

休憩

15:40-15:50

【総合討論】

座長：高津哲也(北大院水)

資源量変動機構解明のために取得を強化すべきパラメータ

15:50-16:30

**開催趣旨：**本邦亜寒帯域に生息する多くの魚類の資源量は、長期にわたる研究努力にもかかわらず、その変動機構が十分解明されていない。特に回遊規模が大きいスケトウダラやマダラ、ホッケ、ニシン、ハタハタや、沿岸域の漁業資源であるマコガレイやキアンコウは、加入量を把握できる時期や場所が年代とともに大きく変動したり、加入量変動に影響を及ぼしている環境パラメータが複雑で特定できていなかったりするために、正確な加入量予測には至っていない。本シンポジウムでは、これらの魚種の漁獲量や資源量・加入量の変動と、環境パラメータや人為的要因との関係を探求し、魚種や系群間で比較・紹介することで、魚種を超えた重要要因を絞り込み、研究組織を超えたパラメータ取得・共有の提言を目指す。